

季節

～時代をかける生徒会～

第四号

石田 絢子 高橋有希奈 掛川 萌恵
井上陽介 樋口雄大



高校卒業式

一月三十日、三十八期の先輩方の卒業式がありました。第四十二代生徒会長の中谷実希先輩が、奈良学園での楽しかった思い出や、素敵な仲間達との出会いを答辞



の中で述べておられました。その時の中谷先輩のかっこよさに、改めて憧れの念を強くしました。

中谷先輩を始め、部活や文化祭などでお世話になった先輩方との別れはちよっぴり寂しいですが、新たな場所でご活躍されることを期待し、笑顔でお送りすることができました。そして、先輩方を見習って、生徒会や部活に、今まで以上に一生懸命励もうと思います。

最後になりますが、三十八期の先輩方、ご卒業おめでとうございます。

(生徒会長 石田)



疾走～矢田山縦走～

矢田山縦走本番に向けて頑張つて準備をしている皆さんの様子を見てみようと思ひ、サッカーグラウンドを訪れました。体育の中本先生にお願いし、他学年の生徒の皆さんと一緒に走らせてもらいました。雑談しながら走っているうちに、全く知らなかった人達とも仲良くなれたような気がします。

このように耐寒自主トレで知り合いの輪を広げ、いよいよ本番を迎えました。途中に、脚が取られてしまいそうな泥道や、坂から転げ落ちてしまいそうな坂道があつたりして、どきどきひやひやしながら走りまわりました。でも何とか完走できて良かったです。みなさん、お疲れさまでした。

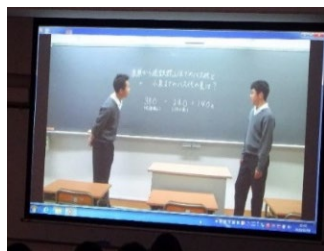
(高校書記 掛川)



文化委員会行事

文化委員会では、二月九日に文化委員会行事を行いました。奈良学園の「学校あるある」や先生方へのインタビューを元に私達が創った動画を上映しました。その他にも、縁日コーナーを設け、射的やボウリングで楽しんでもらいました。来て下さった方、協力して下さい下さった方、ありがとうございました。

(文化委員長 森岡)



フリートーク ～とある生徒会の日常～

二月八日、恒例の矢田山縦走が実施されました。今回も矢田丘陵を十二キロ程度走りました。ほとんどの人は、十二キロは長すぎると思っているのではないのでしょうか。実際、僕もそう思っています。しかし、栃木県には、歩いてですが、十二キロをはるかに超える距離を歩く学校があります。その学校は、「栃木県立大田原高校」。その生徒さんは、毎年五月下旬に八十五キロのコースを二十六時間かけて歩くらしいです。八十五キロと言われても想像がつかないかもしれませんが、実は、奈良学園から彦根城がある滋賀県彦根市までの直線距離と同じくらいです。そう考えると、わ

ずか十二キロくらい、来年から足を止めずに頑張つて走り切ろうと思ひました。

また、この行事は「自分の限界の向こうにある無限に挑戦する」ということで実施されているそうです。僕も最近、自分の限界に挑戦してみたいと感じているので、来年は挑戦してみようと思ひました。高二の方々は、これで矢田山縦走は終わりですが、中一から高一の皆さんは、来年の矢田山縦走で、自分自身と勝負してみませんか。

(中学書記 樋口)

春に向けて

矢田山縦走も終わり、期末試験が明けると、いよいよクラスの友達ともお別れです。残り僅かな時間ですが、クラスメイトと楽しい時間を過ごしましょう。

さて、学期の節目には、毎回終業式、そして始業式がありますが、皆さん、ちゃんと校歌を歌っていますか? 「恥ずかしい」とか「面倒くさいなあ」とか思っていないでしょうか。でも、考えてみると、校歌を歌う機会なんて、卒業するとほとんどないのではないのでしょうか。ということは、校歌を大きな声で歌えるのも、奈良学園にいる間だけの特権です。だったら、存分に声を出して歌いませんか。自分の声って、そう悪くはないと思ひますよ!

(生徒会長 石田)

次回もお楽しみに!

